

## 2. 活動実績[産学連携・地域連携]



## (1) 外部研究費の状況

### 1. 受託研究・共同研究

当センターでは、産学官連携コーディネーターが中心となり、札幌医科大学の研究水準の向上と社会貢献の促進として共同研究・受託研究の推進を図っており、共同研究・受託研究の受入、契約書締結、研究費執行を一括して行っております。

また、より臨床的な研究を主体とする受託研究（一般研究）についても、契約書締結から研究費執行までを行っております（治験や製造販売後調査を除く）。

平成 22 年度は、共同研究 15 件、受託研究 15 件、一般研究 20 件、合計で 50 件の研究契約を締結し、平成 21 年度以前からの継続されている研究も含め、約 3 億 3 百万円の研究費の執行・管理を行いました。

### 2. 科学研究費・国費・財団等助成金

前述の受託研究・共同研究に加え、科学研究費や国費、財団等からの助成金獲得のサポートとして、科研費申請書作成レクチャーや、ホームページを利用した公募情報提供などを行っております。また、獲得した科学研究費や一部の国費・助成金の執行・管理を行っております。

	件数	金額（千円）
受託研究	21	214,213
共同研究	21	53,464
一般研究	50	35,883
科学研究費 （文部科学省、厚生労働省）	263	566,940
国費・財団等助成金	10	16,400
合計	365	886,900

■表：平成 22 年度に執行・管理を行った外部研究費（間接経費含む）

## (2) 寄附講座・特設講座

寄附講座及び特設講座は、産学連携の推進や奨学を目的とする企業からの寄附金や、北海道などからの資金提供を基に、本学の学術研究活動の進展と充実を目的として設置されるものです。平成23年3月現在、以下の寄附講座及び特設講座が設置運営されています。

### 寄附講座の概要

<p><b>緩和医療学講座</b> 緩和医療の現場における治療やケアを緩和医療学として実施することにより、医療レベルの向上、進展を図る。</p>	<p>寄 附 者：株式会社アインファーマシーズ 設 置 期 間：平成20年4月～平成25年3月 予 定 総 額：150,000千円</p>
<p><b>分子標的探索講座</b> がん細胞の新規シグナル伝達に関する研究を進め、がんの予防及び治療、慢性炎症の治療、再生医療への新しい展開を図る。</p>	<p>寄 附 者：日東電工株式会社 設 置 期 間：平成20年5月～平成26年3月 予 定 総 額：420,000千円</p>

### 特設講座の概要

<p><b>オホーツク医療環境研究講座</b> 地域医療を担う医療従事者に対する医学知識の刷新及び再研修方法の研究及びその実践を行う。</p>	<p>資 金 提 供 者：北見赤十字病院 設 置 期 間：平成22年8月～平成26年3月 予 定 総 額：180,000千円</p>
<p><b>道民医療推進学講座</b> 地域医療の確保を目的に、地域医療を担う医師の養成に関する調査、研究を行う。</p>	<p>資 金 提 供 者：北海道 設 置 期 間：平成22年9月～平成26年3月 予 定 総 額：240,000千円</p>
<p><b>南檜山周産期環境研究講座</b> 深刻な産婦人科医不足の問題を解決するため、地域の周産期医療を担う医師の養成及び安全な分娩体制の構築等について調査、研究を行う。</p>	<p>資 金 提 供 者：北海道 設 置 期 間：平成22年9月～平成26年3月 予 定 総 額：80,000千円</p>

### (3) 寄附金

#### ■寄附の受入れについて

本学における医学教育、学術研究等の奨励のため、法人や個人の皆様からご支援いただく寄附金には、次のようなものがあります。

- ①一般寄附金（大学全体への寄附）  
 広く本学の教育研究等に関する経費に充てるため、民間等から受け入れる寄附
- ②奨学寄附金（研究者又は使途を特定する寄附）
  - ・学術研究に関する寄附
  - ・教育研究の奨励を目的とする寄附

#### 平成 22 年度寄附者（業種）別寄附金受入状況

○企業	443 件	368,584 千円
○医療法人等	191 件	63,750 千円
○財団法人等	29 件	62,866 千円
○学校法人等	18 件	3,052 千円
○個人	76 件	32,435 千円
○団体	13 件	16,837 千円
合計	770 件	547,524 千円

#### ■寄附金の使途

奨学寄附金の 90%を医学教育研究、学術研究に必要な機器や消耗品、研究調査関連旅費等の直接研究に関わる財源に使用させて頂くことで、学術・教育研究の発展に役立っております。

奨学寄附金の 5%は学術振興事業を推進するための助成事業費として、残りの 5%は寄附金の管理運営上必要な諸経費として賄われております。

##### ○寄附金（直接経費）の執行

講座等へ配分する寄附金については、本学法人会計規程に基づき、必要な研究経費について、経理・総務等と連携し、適切に執行されております。

##### ○寄附金による学術振興助成事業について

平成 20 年度から寄附金による本学研究者等への学術振興事業の募集を開始すると共に、学内委員による選考審査会に基づき、学術助成金の交付を実施いたしております。

内訳は次のとおりです。平成 22 年度は、76 件/約 2,040 万円を執行いたしました。

今後においても継続し札幌医科大学の学術振興のため一役を担ってまいりたいと考えております。今後とも皆様からのご支援ご協力をお願い申し上げます。



市民公開講座の様子

教育研究事業	40 件	10,790 千円
学術集会・国際交流セミナー等開催事業	8 件	2,159 千円
研究者等海外派遣・受入事業	9 件	2,299 千円
短期留学事業	1 件	757 千円
国際交流懇談会等開催事業	2 件	97 千円
公開講座等開催事業	16 件	4,311 千円
合計	76 件	20,413 千円

#### 寄附金担当部門

電話 011-611-2111

内線 2228,2229,2172,2178

F A X 011-611-2185

E-mail kihukin@sapmed.ac.jp

## (4) 各種展示会出展報告

### ① イノベーション・ジャパン 2010

開催日：平成 22 年 9 月 29 日～10 月 1 日

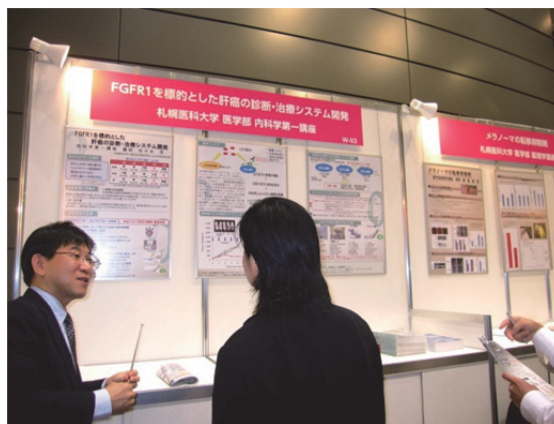
場 所：東京国際フォーラム（東京都）

出展テーマ（参加者）：

- a. メラノーマの転移抑制剤  
（医学部 薬理学講座 堀尾 嘉幸 教授）
- b. FGFR1 を標的とした肝癌の診断・治療システム開発  
（医学部 内科学第一講座 佐々木 茂 講師）
- c. p53 蛋白質と人工 miRNA の共発現によるアポトーシス誘導  
（医学部 附属がん研究所分子生物学部門 井戸川 雅史 助教）

毎年、東京で開催されるイノベーションジャパンは、約 400 の大学、研究機関、ベンチャー企業等の団体がブースを出展し、期間中には 4 万人前後の来場者を数える大規模な産学官のマッチングイベントです。本学は 2006 年の研究紹介 1 ブースの出展を皮切りに、その後、毎年数ブースを出展しています。2010 年は研究紹介 3 ブースを展開するとともに、各シーズのショートプレゼンテーションも実施しました。

本イベントは、多くの企業関係者との交流を進める良い機会となっており、今後とも本学の研究シーズの出展による紹介を積極的に進めていきます。



## ② ビジネスEXPO 2010

開催日：平成 22 年 11 月 11 日～12 日

場 所：アクセスサッポロ

出展テーマ（発明者）：

- a. ESR による新規抗酸化能評価方法  
（医療人育成センター 化学教室 藤井 博匡 教授）
- b. サケ由来コラーゲン、エラスチンを素材とした医療・歯科用材料  
（医学部 形成外科学 松本 佳隆 助教）

平成 22 年度のビジネス EXPO には医療人育成センター化学教室藤井博匡教授の「ESR による新規抗酸化能評価方法」及び医学部形成外科学 松本佳隆助教の「サケ由来コラーゲン、エラスチンを素材とした医療・歯科用材料」を中心にポスター展示を行いました。また、本学の研究シーズを紹介するとともに、附属産学・地域連携センターの取り組みについて展示しました。期間中は本センターの産学官連携コーディネーターの佐藤準特任講師がポスター等について解説を行い、多くの来場者が訪れました。

今回も、会場にはのべ 18,121 人の来場者があるなど、大変活況を呈していましたが、本センターでは、毎年継続的に本イベントに出展することで、道内企業等との連携を推進していきます。



## ③ 六医科大学合同新技術説明会

開催日：平成 22 年 12 月 9 日

場 所：独立行政法人科学技術振興機構 JST ホール（東京都）

出展テーマ（参加者）：

- 指動脈スティフネス指標の開発とその応用  
（医療人育成センター 心理学教室 田中 豪一 准教授）

JST では、大学等が主体となった特許等の研究成果の社会還元活動を積極的に支援するため、大学等と連携した新技術説明会を開催しています。今回は、浜松医科大学の呼びかけにより、浜松医科大学、旭川医科大学、滋賀医科大学、関西医科大学、聖マリアンナ医科大学及び本学の 6 医科大学が合同で、JST 新技術説明会を開催しました。

新技術説明会は、予め公表したテーマごとに参加企業を募り、研究者が参加企業に対してプレゼンテーションを行います。本学からは、医療人育成センター心理学教室の田中豪一准教授が、「指動脈スティフネス指標の開発とその応用」と題して合計 40 社に対してプレゼンテーションを行い、説明終了後に 2 社と個別に情報交換を行うことができました。

今後、このような機会を捉えて、企業ニーズを掴みながら研究成果を社会に還元できるよう、技術移転活動を展開したいと考えており、平成 23 年度も新技術説明会を企画していきます。



#### ④ 北海道バイオ産業クラスター・フォーラム

##### 平成 22 年度 第 3 回 技術シーズ公開会 ～医薬・医療関連技術～

開催日：平成 22 年 12 月 3 日

場 所：札幌アспенホテル

発表テーマ（発表者）：

- a. がん抑制遺伝子 p53 ネットワークに基づく遺伝子治療戦略  
（医学部 附属がん研究所分子生物学部門 時野 隆至 教授）
- b. がん個別化医療に向けた検査診断薬の開発  
（医学部 病理学第一講座 鳥越 俊彦 准教授）
- c. 組織工学的手法に基づく組織新生—軟骨を中心に—  
（医学部 形成外科学 松本 佳隆 助教）
- d. レスベラトロールの薬理効果と長寿遺伝子産物サーチュイン  
（医学部 薬理学講座 堀尾 嘉幸 教授）



北海道バイオ産業クラスター・フォーラム（事務局：ノーステック財団）及び北海道経済産業局の主催による「北海道バイオ産業クラスター・フォーラム」は、現在 124 社のバイオ関連企業が参加し、企業間連携の促進、情報発信の場の設定等を通じて、道内で生み出されるバイオ製品の販路拡大等に向けた取り組みを行っています。今回は、「医薬・医療関連技術」をテーマに、フォーラム参加企業の新たな製品・技術開発の促進を目的とし、本学からは、4 名の研究者のシーズ公開を行いました。発表後も、各研究者と企業が情報交換及び質疑応答を積極的に行うなど、企業との連携を進める上で、大変有意義なイベントとなりました。

今後も、開発可能な本学の研究シーズの発表を行うことで、産学連携による共同研究、共同開発等の機会を探っていきたいと考えています。





## (5) セミナー開催報告

### ① 北海道医療産業研究会 セミナー

本学、室蘭工業大学、小樽商科大学及び北海道立工業試験場が連携して設立した北海道医療産業研究会（平成20年7月18日設立）は、2回のセミナーを開催しました。

各回とも、企業、大学、支援機関等から参加があり、活発な質疑応答をいただきました。今後の研究会の産学官連携による支援活動にご期待ください。

#### ○ 第1回セミナー「医療関連ニーズ発掘のポイントを探る」

開催日：平成22年12月21日

場 所：小樽商科大学 札幌サテライト大講義室

テーマ（講演者）：

- ・「医療ニーズに応える医工連携コミュニケーション」  
（地方独立行政法人 秋田県立病院機構 秋田県立脳血管研究センター  
脳神経外科学研究部 西村 弘美 主任研究員）
- ・「医療現場における医療機器、医療材料のニーズ」  
（財団法人 太田総合病院附属太田西ノ内病院 ME室 入谷 隆一 室長）

#### ○ 第2回セミナー「医療関連ニーズ発掘のポイントを探る」

開催日：平成23年3月14日

場 所：小樽商科大学 札幌サテライト中講義室

テーマ（講演者）：

- ・「中小企業をターゲットにした医工連携～群馬大学医学部附属病院の事例～」  
（前 群馬大学共同研究イノベーションセンター産学官連携コーディネーター  
株式会社 スズケン 事業開発部 大石 博海 顧問）



## ② 医工連携人材育成セミナー「医療・介護・福祉関連の用具・機器開発の事例を学ぶ」

開催日：平成23年3月8日（火）

場 所：会議・研修施設 ACU

テーマ（講演者）：

- ・「神戸地域中小企業の医工連携人材育成と医療・福祉機器開発への取り組み状況」  
（財団法人神戸市産業振興財団 理事 永井 千秋 先生）
- ・「医療機器開発の事例と薬事法手続」  
（財団法人先端医療振興財団クラスター推進センター 調査役 吉川 典子 先生）

北海道地域における医療・介護・福祉関連のものづくり産業の活性化と充実を大きな目標とし、開発を目指す企業の方や開発を支援する産学官連携に携わる方を対象として、医療産業への進出のポイントと医療機器や介護・福祉機器の開発に必要な医療・薬事関連法律等について学ぶセミナーを開催しました。

財団法人神戸市産業振興財団及び財団法人先端医療振興財団クラスター推進センターから2名の講師を招き、医療機器開発の事例、薬事法の規制と承認の手続等について、講演いただきました。先進事例である神戸の医工連携の現状、人材育成に関わる活動等を、当事者の立場から、時にはユーモアを交えながら紹介いただき、活気にあふれる会となりました。



### ③ 科研費申請書作成レクチャー（学内向け）

テーマ：『科学研究費補助金申請ノウハウ』

#### 第1回

開催日：平成22年9月28日

講師：医学部長（医化学講座）黒木由夫 教授

参加者：学内教員・研究者 35名

#### 第2回

開催日：平成22年10月6日

講師：分子標的探索講座 新津洋司郎 特任教授

参加者：学内教員・研究者 39名



科学研究費補助金への応募へ向けて、毎年申請書作成レクチャーを開催しており、今年度は学内若手教員を主として約70名の参加がありました。講師の黒木教授、新津特任教授からは、申請書作成に当たっての注意点やコツ、応募に当たっての心構えなどについて詳しい説明があり、また参加者からも質問が寄せられ、熱のこもったレクチャーとなりました。本レクチャーを開催することにより、全学的な競争的資金獲得へのモチベーションの向上や応募書類の質的向上を期待しています。

